

成人式祝辞

冒頭挨拶

新成人の皆様、おめでとうございます。また、今日まで深い愛情を持ってお子さんを立派に育て上げられた保護者の皆様、ご家族の皆様にも重ねてお喜びを申し上げます。

みなさんの表情は、とても晴れやかで眩しくもあり、日本の未来は明るいぞと心強く感じています。ところで皆さんの現在の心境は如何でしょうか。大人の仲間入りをするとやった気負いよりは、久々の故郷での旧友との再会に心躍っていると言ったところが本当かもしれません。しかし、大きな節目でありますので、皆さんが過ごした 20 年の軌跡を、これまで皆さんを支えてくれたご両親や大勢の方々との出会いに感謝しつつ、思い返して噛みしめていただきたいと思います。

生まれ年

皆さんは、平成 7 年から平成 8 年生まれではありますが、その頃はどんなことがあったか少々振り返ってみたいと思います。政治的には自民・社会・さきがけ連立政権時代で社会党の村山富市首相が戦後 50 年に当たっての政府談話を発表し、アジア諸国に反省とお詫びの気持ちを表明しています。平成 7 年 1 月には阪神淡路大震災が発生し、3 月に地下鉄サリン事件が起きています。正確には皆さんの生まれる前年度の出来事ですが、とても重大な出来事ですのであえて触れさせていただきました。全日空機のハイジャックは同年 6 月に、北海道の豊浜トンネル崩落事故は翌年の 2 月に起きています。何れも日本を揺るがす大災害・大事件でした。

勿論生まれた年のことは、皆様にとって記憶にないことと思いますが、平成 5 年の北海道南西沖と平成 7 年の阪神淡路、平成 23 年に起きた東日本の三つの大震災は、災害列島に住む私たちの宿命として今後長く語りつないでいかなければならない出来事であります。

また、この 20 年の間は、経済的には低迷期とも言われていますが、最近になってさらに人口減少社会の到来という問題が重なり始めています。特に、1 昨年でありましたが、消滅可能性がある市町村の公表はとりわけ地方に大きな衝撃をもたらしました。私たちは、確かな努力と挑戦者の気概を持ってこの人口減少社会に立ち向かってまいります。地方創生には、皆さんをはじめとする若いエネルギーが是非とも必要です。皆さんがふるさと厚真に誇りと愛着を持ち、皆さんの手で皆さんのための新しい時代を築いていただきたいと思います。

大人の自覚と政治参加

折角の機会ですので、ここで私からふたつばかりお願いがあります。20 才ともなれば、これまで以上に周囲から皆様に対する期待が大きくなるのであります。具体的に申し上げますと、権利と自由はより大きなものとなり、その代わり責任や義務はより重くなります。しかし、この自由や権利は、安全で健全な社会があって守られていることを忘れてはなりません。

もう一つは、政治参加に関するお願いです。衆・参の国政選挙、知事・市町村長・各議会議員などの地方選挙が毎年のように執行されます。その都度マスコミの話題の中心となりますが、一方で、各種選挙の投票率の低下に歯止めがかからないことが心配です。日本の政治は選挙で選ばれた皆さんの代表がこれに当たりますが、棄権は、まだ見ぬ結果に白紙委任したことになります。つまり、棄権や白票は、時代や社会にもの申す権利と責任を放棄したことになります。皆さんが政治に興味を失えば、政治は皆さんからどんどん遠ざかってしまいますし、民主主義も輝きを失ってしまいます。今年の7月に行われる参議院議員通常選挙から選挙権は18歳に引き下げられますが、皆さんの未来のために是非投票に行きましょう。

贈る言葉

話は変わりますが、ここで私の好きな言葉を二つばかり紹介したいと思います。今年はおリンピックイヤーです。開催国はブラジルですが、4年後の開催国は東京です。去年は国立競技場の設計変更やロゴマークが問題となり、国民の間の盛り上がりにも水を差す結果となりましたが、招致が実現した時の感動は今も色褪せていないと思います。そこで語られた佐藤真海選手の言葉を先ず紹介します。当時、佐藤選手はパラリンピックの陸上選手でしたが、皆さんと同じ年ごろに右膝下を骨肉腫の治療のために切断しています。

『私は目標を決め、それを越えることに喜びを感じ、新しい自信が生まれました。そして何より、私にとって大切なのは、「私が持っているものであって、私が失ったものではない」ということを学びました』と、本当に素晴らしいメッセージだと思います。私たちはつい失ったものに囚われがちです。どんなことが起こったとしても、自分が持っているものを信じること、そんな強さを身につけたいものです。

もう一つは、元サッカー日本代表のオシム監督の名言です。「奇跡といっても、自然に起きるわけではない。奇跡がなぜ起きるのか、プロセスを研究する必要がある。毎日奇跡が起きるわけではない。奇跡を金で買うこともできない。入念に準備した上でしか、奇跡は起きない」。チャンスがないことを嘆くのではなく、必要な準備を続けることが大切なのです。

さて、2020年の東京オリンピックですが…、「皆さんは4年後にいったい何をしているのでしょうか？」想像をめぐらしてみてください。皆さんがこれから歩む道は、決して平坦な道ではないかもしれませんが、ただ、支えてくれる人が必ずいます。多くの出会いと一つひとつの努力の積み重ねがいつか必ず大きな実を結ぶことになるかと信じています。

結びに、皆様の前途とご家族の皆様に幸多かれとご祈念申し上げ、祝辞といたします。本日は、誠におめでとうございます。

平成28年1月10日

厚真町長 宮坂 尚市朗